

日本建築学会東北支部

東北地方太平洋沖地震災害調査速報（6）

2011年3月25日号

東北支部災害調査委員会

田中 礼治（東北工大）

荒井 智彦（東北工大）

この報告は宮城県の南端にある山元町の津波被害を示したものである。山元町の海岸近くに建てられた東北工業大学の2人の先生の住宅が津波によって流され、現在避難生活を送られている。山元町の津波高さは約3～4mである。津波を受けない街の部分は被害がほとんどない状態である。



1階の屋根に車が載っている。



1階の屋根まで津波がきていて、手前の家は倒壊している。



1階に津波が入り、室内は空の状態になっている。



1階部分が津波によって倒壊寸前の状態。



津波によって基礎がむき出しになっているのがわかる。



杭基礎を利用している。地盤が悪い。



流された家が見える。流出物だらけである。



シャッターを破壊して津波が中まで入り込んでいる。



外壁が破れ、1階に津波が入っている。



RC造の住宅。津波が1階まで来ているが建っている。



1階の屋根まで津波が来ている。ブロック塀も破壊されている。



1階の屋根まで津波が来ている。



津波が入った1階の室内。家具は何もの残っていない。